

令和元年10月3日

【令和元年度第2回（30回）セミナーのご案内】

日 時：令和元年12月7日（土）13：00～16：30（12：30から受付開始）

場 所：日本ライトハウス情報文化センター 4階 会議室1・2

大阪市西区江戸堀1-13-2 TEL：06-6441-0015

地下鉄四つ橋線「肥後橋駅」下車。北改札・2号階段を上がった左横（6m）

テーマ：「これで楽しくなる！理科、算数・数学の点字表記と、学習導入」

内 容：日本の点字表記が新しく改訂され、各グループ・施設で順次、新規則に移行されているのではないのでしょうか。関連して、2020年には理科、算数・数学の点字表記も改訂されます。また、2020年度の小学校教科書から、各学年で習得する内容が大きく変わるなど、大改訂が始まります。

そこで、一足先に、理科、算数・数学の点字表記がどのように変更されるのか、または新たな規則が追加されるのかを学び、さらに、視覚特別支援学校における算数指導についてお話をうかがいます。

プログラム：

13：00～13：10 開会挨拶

13：10～14：00 算数・数学の点字表記改訂ポイント（日本点字委員会委員、当会理事 加藤俊和氏）

14：00～14：50 理科の点字表記の改訂ポイント（日本ライトハウス点字情報技術センター所長、日本点字委員会委員 福井哲也氏）

14：50～15：10 休憩

15：10～15：50 算数学習で重要なポイント=線の指たどり、珠算など（大阪府立大阪北視覚支援学校の事例報告）

15：50～16：25 質疑応答と意見交換

16：25～16：30 閉会挨拶

定 員：70人

参加費：会員500円、非会員1,000円

お申し込み・問い合わせ：

日本ライトハウス情報文化センター点字製作係 奥野

氏名、所属名、電話番号、資料の希望媒体（点字か墨字のいずれか）を書いて、11月25日（月）までに、下記までお送りください。

e-mail：okuno@lighthouse.or.jp

TEL：06-6441-1028（点字製作係直通） FAX：06-6441-1026

【理事長就任挨拶】

《新理事長 野々村 好三》

この度、田中徹二前理事長の後任として本会の理事長を拝命いたしました野々村好三でございます。日頃は京都ライトハウスで勤務しておりますが、本会には発足時より、市民団体「地域の学校で学ぶ視覚障害児（者）の点字教科書等の保障を求める会」（略称：「求める会」）の役員として関わっております。大役を仰せつかり身の引き締まる思いですが、使命を全うすべく、全力を尽くす所存でございます。

本会は2005年1月に産声を上げ、以来、セミナーの開催、パンフレットの作成、文科省との懇談、都道府県・政令指定都市教育委員会への調査など多様な取り組みを通じて、点字教科書の質の担保と安定的な供給、情報共有に取り組んで参りました。その中心に田中理事長が常におられ、牽引してくださっています。

そして今、発足15周年を迎え、私たちを取り巻く状況はめまぐるしく変化しております。その一つは、近年、教育界でデジタル教科書に関する動きが加速しており、学校教育法や著作権法の改正にもその影響が表れているということです。しかしながら、本会でも何度か取り上げてまいりました通り、デジタル教科書は点字や点図には対応しておらず、万が一本格的な導入が行われれば、たちまち視覚障害児童・生徒が取り残されるという事態が起こりかねません。こうした状況を生み出さないよう注視していくことが重要であると考えております。

他方、マラケシュ条約の批准や著作権法の改正、読書バリアフリー法の成立など、視覚障害者をはじめ、読書に様々な困難を抱える障害者の読書権保障に社会の関心が集まりつつあります。また、来年のオリンピック・パラリンピック開催を一つの契機として、共生社会実現への機運が高まってきています。

点訳グループ構成員の平均年齢の上昇や教科書のビジュアル化、新たな点字表記への対応など、私たちを取り巻く課題は山積みですが、点字出版施設、点字図書館、点訳グループなど点字教科書に関わる私たちが一体となって、知恵を出し合い、一度しかない子どもたちの「今」が最高のものとなるよう、子どもたちが胸を張って使える点字教科書を今後も提供していきたいものです。

引き続き、ご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

【令和元年度第1回（29回）セミナーのご報告】

日時：2019年6月15日（土）13：30～16：30（13：00から受付）

場所：日本点字図書館（3階多目的室）

参加者：50人

テーマ：「小学校用教科書の改訂に当たって、点字教科書製作で考えること」

※冒頭にて午前の総会で新しく理事長に就任した野々村好三より就任の挨拶と共に理事の退任などの体制変更の報告がなされた。

(1) 「視覚障害者の現状と点字教科書」

(文部科学省視学官・特別支援教育調査官 青木隆一氏)

前半は「特別支援学校・視覚障害者の学びの場の現状」としてスライドで地図・表・グラフを示しつつ、特別支援学校（以下、盲学校）数や生徒数の変遷について説明、そこから生じる課題を解説いただいた。盲学校の在籍生徒数の減少は教員の減少にもつながり、また点字などの専門性の高い教員の人事異動にもつながること、一般校での就学が増えることにより、盲学校の役割が拡大するにもかかわらず、教員数の確保が厳しい現状のことなど、さまざまに派生する課題についても解説いただいた。

盲学校の生徒数の減少は、ここ 10 年ほど声高に言われているが、実は盲学校が義務教育となり、9 年経過した昭和 34 年がピークであること、現在盲学校に在籍している生徒の内点字使用は 4 割、墨字使用は 6 割であること、日本は少子化で子供の数は減少しているにも関わらず、特別支援教育（一般校での通級を含む）を受ける子どもの割合は増えていることなど、抽象的な概念で語られていた事項が数値として示された興味深い内容だった。

後半は、今年度が小学校教科書の改訂年度に当たることから、改めて文科省著作点字教科書（盲学校用点字教科書）の製作の過程について、具体例を交えて解説いただいた。検定を通過した教科書から原典となる教科書を選ぶ観点（点訳しやすい・弱視者に使いやすいなど）や編集方針などについて時間軸に沿った明快な解説をしていただいた。点字教科書にするうえで、視覚障害特有の配慮についても色や明暗で理解を深める内容は、触覚や味覚に替えて説明できるようにしたり、文章表現を工夫したりするなどの具体例については会場からも「ああ」と納得の声が聞かれた。

インクルーシブ教育での教科書の点訳は、他の生徒との兼ね合いもあり、盲学校用点字教科書のような編集は加えられない場合がほとんどだが、学習していくうえでのヒントとなる情報が多く詰まった講演内容となった。

(2) 「インクルーシブ教育を受けて来た体験談」

(社会福祉法人桜雲会 森田佳那子氏)

森田氏は現在、30 代前半。奈良県で小・中・高校は一般校でインクルーシブ教育を受けたとのこと。母親の創意工夫と地元の点訳ボランティアグループの協力により教科書などの学習資料の支援を受けたことを成長過程に沿って語った。

高校の音楽の授業では教師の方針で教科書は使用しないで授業が進行するとのことで「点訳不要」と言われたが、本来他のみなが手にしているものを「使用しない」という理由で一方的に与えられないことに違和感を感じたことなど当事者としての心境などについても語った。

最後は現在は点字に携わる仕事についていることもあり、改めて当たり前のように手元にもたらされていた教科書などの点字教材を作成してくださったボランティアグループに感謝の意を示し講演を締めくくった。本会会員でもある「青垣会」が森田氏を支援していたため何年かぶりの再会となり会場は大いに盛り上がった。

(3) 情報交換

森田氏への質疑応答を含め、インクルーシブ教育での注意点や教科書点訳についての創意工夫など活発な意見交換が行われた。

【令和元年度第1回理事会記録】

日時：2019年6月16日（土）12：00～13：00

場所：日本点字図書館会議室

内容：

1. 令和元年第1回セミナーの進行の確認
2. 今年度の秋のセミナーの日程について
3. 現在MLで使用しているfreemailが利用できなくなるため、GOOGLEに移行することを確認。
4. 「教科書点訳のてびき」の改訂に向けての原稿執筆依頼とスケジュールの確認。
5. その他
総会で、議長、議事録署名人を確認する方が良い。

【令和元年度第2回理事会記録】

日時：2019年7月31日（水）13：30～17：00

場所：日本点字図書館会議室

内容：

1. 「教科書点訳のてびき」の今後の予定について
現在の在庫部数は2冊になった。
原稿依頼者の確認。
今後のスケジュール：原稿締切 9月末
データ加工・鈴→内容確認/編集・加藤→最終確認・加藤 鈴
印刷入稿（ヤマオー事務機へ） 1月
2. メーリングリストについて
Googleで新たなMLを作り、移行するよう進めている。理事会MLはすでに移行済み。
これまで使用してきた会員向けfreemailのMLに田中理事の理事長退任の挨拶を流す。
その後、別途、Googleに切り替わることを会員向けにアナウンスする。
移行とともに、会員MLの登録者の確認を行う。→登録者確認ができれば、理事会MLに報告してほしい。
3. 今年度の秋のセミナーについて
4. 教点連ニュースの発行
5. その他
 - ①デジタル教科書の動向
その後、特に動きはないが、もう少し学校現場の先生の考えを聞いてみたい。
 - ②大学生用教材の情報共有について
大学生の教材についても、点訳グループの情報や、教材内容に関することを教点連として共有していけないか。→まずは、会員で把握できるようなMLを作ってはどうか。→今は教科書製作をしていなくても、教点連とつながってもらえる仕組みを作れないか。→ホームページに掲載して、広く知ってもらうことも重要。

次回の理事会は、12月7日（土）11時から、日本ライトハウス情報文化センターで開催。

発行日：令和元年10月3日

発行所：NPO 法人全国視覚障害児童・生徒用教科書点訳連絡会

ホームページ：<http://kyotenren.web.fc2.com/>

発行人：野々村好三

連絡先：（社福）日本点字図書館 担当：川島・松本

〒169-8586 新宿区高田馬場1-23-4

Tel：(03)3209-0241 Fax：(03)3204-5641

E-mail：matsumotom@nittento.or.jp

振込口座番号：0180-7-262151